2023 年 4 月 1 日

理事長発　66 号

医療法人西福岡病院　2023（令和 5）年度経営基本方針

要旨：「ありがとう」、「ごめんなさい」の言える職場に。忠恕～まごころとお互いを思いやる明るくヒトに優しい職場に。患者接遇地域ナンバーワンを獲得して地域包括ケアシステムの核施設へ。67 年余にわたり誠実良質な医療提供・実践してきた法人として、矜持を新たにして病院の選択と集中の嵐を雄雄しく乗り切る。新医療提供体制の中で継続して役割を担い得る質と量を保持する。DPC 適用施設として遺憾無きよう医師を核として「需要」を増やすように思考し行動する。ただし全職員が法規遵守、志を高くして夢を共有する。教養を身につけ磨き上げ、ヒトとしての価値を高める。幹部は自ら身を正し、率先垂範して教育を行ない、リーダーシップを発揮すること。医療・介護のスペシャリストとして自らの健康管理に留意する。年次有給休暇の取得の促進。従業員の喫煙率低下を更に強力に推し進める。個々人がその責任において明確な目標を行動計画として策定し、経営意識を向上させその達成に向け仲良く議論に参画する。

医療を担う専門職として、まず自らの身持ちを良くしておくこと。咳エチケットの実践や禁煙など範を垂れるべく行動すること。

個々に与えられた領域の知識を増やしつつ日々の業務に応用し、結果として法人の力量の向上・充実に資するように努めることは勿論であるが、周辺領域、他領域についても同様の関心を持ち学んでいく姿勢を示すこと。あえて分掌領域・範囲を狭めないこと。

医師を含む強力な職員研修教育システムの構築。在宅医療介護、特に地域密着型サービス事業、在宅復帰支援力強化、訪問診療の充実。オンライン診療の適切な実施。職場・敷地内環境改良（ガーデンホスピタル構想）。導入したシステムの利活用を図る。地域医療構想の趣旨である 2025 年ないし 2040 年問題解決に則した対策を講じていく。

2024 年度から 29 年度までを対象とする「第 8 次医療計画」に向けて法人としての責任を果たすべく情報を収集する。

１、理念：　地域の人々に信頼される納得と安心の医療・介護・福祉の提供を目指す。

２、診療：　私院長・施設長を中心とした職制を尊重し、全員良医師をめざす。
私たちを選択して頂いた患者様への明朗・親切な対応の日々実行、診療水準（質）向上を図る。
呼吸器疾患をはじめとする診療提供体制の充実。結核病棟を維持経営することを矜持とし行政の理解を求める。各種当番日における救急入院の受け入れ促進。後発医療品使用促進を含む効率化の一方、安全対策を強化し、重大医療事故・医療訴訟防止。医師一人当りの業務密度格差解消。医師の業務実態を踏まえた公正正当な評価を遂行・実行する。臨床医の適正配置を図る。

３、看護：　安全安心な看護の提供
退院支援マネージメント力の向上。入院の速やかな受入れ。経営参画意識の向上。安全感染管理意識の向上。看護記録の充実。褥瘡発生率の低下。認知症ケアの充実。専門職意識の向上。看護研究の推進。認定看護師育成。新人教育体制の確立。リーダーシップを取れる人材の育成。互いが尊重される風土づくり。

2023 年 4 月 1 日

４、総務：　部門横断的組織運営で情報を共有、志を一つに高潔なる職業人集団を育成する。

キャリアーパスを提示した人材育成に力点を置き意欲に溢れる人材雇用・登用し、子育て支援宣言施設の取り組みと共に福利厚生を充実、雇用の安定をはかる。新人教育の体系化。継続的学習体制構築。学会活動・執筆活動を盛んにする。TQM 発表会の充実と過去分レヴュー。部門毎のコア人材育成。ホームページ不断の改良・充実。情報伝達システム再構築。成果加算の導入検討。標準業務マニュアル充実・管理の一元化。

５、医事：需要創出努力による病床利用率向上。

地域営業活動の拡充。診療報酬制度研究。近未来医療体制への準備を怠らないクライアントクレーム最少化。医師事務作業補助の更なる充実。電子カルテに蓄積されるデータの利活用検討。

新規の事業展開への模索。全課員で施設基準研究。

６、経理：予算達成のために思考し行動する！部門別採算性の握掌。作業能率の向上。一層の経費節減。適正利益の向上。職能・成果を給与体系に組み込む。キャッシュフロー改善のための工夫と提言。

７、地域：情報発信を充実させ支援者を増やす努力を。広報誌「生きがい」の発行継続。生きがいクラブ事業（健康講話等）を通じ、体系的で積極的な地域交流を展開。ＮＰＯ法人化を検討。院外モニター制（評議会）導入検討。毘奈多倶楽部（ＯＢ・ＯＧ会）活動推進。曽田豊二文庫の利活用。

ＯＢ・ＯＧが寄りつきやすい環境醸成。

地域に根ざした、かかりつけ医としての役割を更に推進する。

８、展開：地域医療連携推進法人・認定医療法人について検討する。

全てのステップにおいて全従業員は迅速・誠実な対応を。日常の中に気付く心を養う。
地域医療・教育機関との連携強化（補完、互恵、切磋琢磨）。更に登録医（連携医療機関）増へ。
職域ごとに医療・介護連携ネットワーク拡充。健康診断部門の質の向上、営業力向上。特定健診保健指導１６年目の評価。産業医としての役割の整理。在宅医療部門の強化と、積極的な訪問展開。「福岡市民生事業連盟」「福岡ケアサービス」「学而会」をはじめとする関連友好施設・グループとの連携強化。かかる他法人との厚誼を円滑にするための法人全従業員の心構えの再確認。
内部における意思統一のうえに、国民皆医療・介護保険制度を守るべく、地域の木鐸として患者地域住民への啓蒙を行い、医療政策提言をも視野に入れ、地域においてリーダーシップを発揮できる組織力を志す。
以下、具体的事例
「介護付き有料老人ホーム西の丘」の産業医活動
「城原小学校」「下山門小学校」の学校医
「西保健所」の結核療養相談
「早良保健所」の結核審査会
「福岡市民生事業連盟　歴史の里・ケアタウン茶山」の配置医
「グループホーム安養・花安養」の訪問診療、訪問看護